

寒い冬の日に ● 熱い豆がゆはいかが

英米文化学科 上野 誠治

マザーグースの中に、日本の「せっせっせ」に似た、次のような手遊び歌がある。

Pease porridge hot,
Pease porridge cold,
Pease porridge in the pot
Nine days old.

ここでは、この歌から連想されることを幾つか述べてみたい。第一に、pease porridgeとは、「エンドウ豆のお粥（ポリッジ）」のことであるが、peaseは現代英語 *pea* の古語である。peaseは元は単数形であったが、16世紀にはその複数形として *peasen*、*peses* に加えて語末音-nの脱落形 *pease* などもあった。そして、この単複同形になった *pease* は、やがて語末の-seが複数語尾と感じられ、新しい単数形 *pea* が生じたというわけである。これに類する過程を経て生じた単語に、*burgle* *v.* (< *burglar* *n.*)、*edit* *v.* (< *editor* *n.*) などがある。これは逆成と呼ばれる現象である。

また、*pease* は、異分析の例として紹介されることもある。異分析とは、本来の語源と異なる方法で分析されることで、よく引用される例に *an apron* (< *a napron*)、*a nickname* (< *an ekename*) などがある。これをふまえてもう少し正確に言えば、*pease* の場合は、その語末にある-seが複数語尾と異分析された結果、逆成により *pea* という新しい単数形が形成されたのである。

第二に押韻形式を見てみると、*abab* の典型的な4行連となっている。また、*oatmeal porridge*、*corn porridge* など、どんな種類のポリッジでもよかったのであろうが、*pease porridge* が選ばれたのは /p/ 音の頭韻が考慮されたためかもしれない。頭韻は古代ゲルマン詩の特徴であるが、現代でもことわざ、成句、ネーミングなどに好んで用いられている。*Care killed the cat*、*Micky Mouse*、*Donald Duck* などがその例である。



第三に、この歌には次の4行が加わるが、

Some like it hot,
Some like it cold,
Some like it in the pot
Nine days old

マリリン・モンロー出演の喜劇映画『お熱いのがお好き *Some Like It Hot*』の題名の由来がここにあるのはもうおわかりだろう。ちなみに、読んだことはないが、やはりここからとったと想像される書物(題名 *Some Like It Cold*)もある。副題には *Arctic and Antarctic Adventures* とあるので納得がいく。マザーグースからの引用は英米人の琴線に触れる洒落たタイトルになるであろう。

こんな七面倒くさいことは、もちろん考えもせずに、我が家の子供たちは幼い頃ビデオを見ながら無邪気にこの手遊び歌を「ピー・ポリッ・ホッ」と歌っていた。これも語末音の脱落ということになるのだろうか。

